

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 15 日作成)

委員会名	PC 性能設計法小委員会	主 査 名：加藤博人
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (プレストレストコンクリート構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：浜原正行
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>プレストレストコンクリート(PC)構造に対応する性能評価型設計体系を構築するため、構造設計に係わる設計法全体のフレームワークについて検討する。 具体的には PC 構造の特性をふまえた適正な限界状態の設定と、性能評価指標およびクライテリアについて検討し、性能グレードの考え方、性能表示法等も考慮しながら、将来の PC 構造規準改定に向けた資料として取りまとめを行う。</p> <p>初年度：現在提案されている限界状態の定義と分類について整理し、PC 構造の特性をふまえた適切な性能評価指標の設定について検討する。併せて、内外の文献調査、既往の設計法で実現されていた性能レベルについての検討などを行い、課題の抽出を行う。</p> <p>2 年度：設計・解析手法と関連付けて、適切な性能評価指標とそのレベルについて検討する。また、性能評価法、性能表示法等についても検討する。</p> <p>3 年度：引き続き性能評価法等の検討を行う。さらに、別の小委員会で行われる耐震設計に関する検討内容と調整しながら、構造設計全体のフレームワークについて検討する。</p> <p>4 年度：構造設計全体のフレームワークについて提案する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査：加藤博人(建築研究所) 幹事：市澤勇彦(ピーエス三菱) 委員：太田義弘(竹中工務店技術研究所)・小山内裕(オリエンタル建設)・岸本一蔵(大阪大学)・蔵田富雄(住友建設)・佐藤啓治(大成建設)・出口 兼(和歌山県土木部営繕課)・西山峰広(京都大学)・深井 悟(日建設計)・増田安彦(大林組技術研究所)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	アンボンド PC 構造 WG ：アンボンド PC 部材の構造性能評価法について検討を行い、「アンボンド PC 構造設計用の資料」として取りまとめを行う。	
2003 年度予算	180,000 円	

項 目	自己評価		
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年 5 月 14 日・9 名	9 月 3 日・9 名	11 月 26 日・7 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) PC 構造の特性をふまえた性能評価指標およびクライテリアについて検討し、現在、別の小委員会で作業を進めている PC 構造規準改訂作業に活用可能な基礎的資料として取りまとめを行った。 小委員会報告書「PC 造建築物の性能設計に係わる資料」を作成した。</p> <p>2002 年学会大会では、パネルディスカッション「アンボンド PC 構造の可能性を探る」を開催した。また、アンボンド PC 構造 WG 報告書「アンボンド PC 構造に関する報告書」を作成した。</p>		
	委員会 HP アドレス：		
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係) PC 構造の性能評価型設計体系構築に向けて基礎的な資料の整備を活動目標としたが、耐震性能に限らず常時荷重に対する性能や耐火性能等も含めた広範な課題について検討を行ったこともあり、十分にまとまっていない感じは否めない。ただし、今後、PC 構造規準改定作業を進めるうえで考慮すべき項目や、既往の研究データの把握に役立つ資料収集は達成されたものと認識している。</p>		
その他評価すべき事項			